



Subaru

男声合唱団

ニュース№551

'16. 3. 6



3月・春到来！新曲のレッスンに 力が入る指揮者と団員

3月4日

□待ちわびた春がようやくやってきました。あちらこちらの公園や家の庭には春到来を告げる真っ白い大きな木蓮の花が一斉につぼみを大きくふくらまし、そして桜の開花前線の北上が始まります。今年の大阪の開花予想は3月26日です(3月3日発表)。

とはいえ、生きている私たちの生活の場は”未だ春遠し？”“の感がする厳しい状況にありますが、昂にとってもこの厳しい季節の真ただ中で第10回コンサートをやり終え、新しい春到来とともに新たな気分で次の新しいステージへと進もうとしています。みんながそれぞれの事業や分野で、力を合わせて、コツコツと真面目に努力する中で、本当の春が到来する予感もする今日この頃です。



□3月4日(金)18:00~20:30「昂」定例レッスンが行われました。奥村さんの体操と伊藤さんのヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮で「川の流れるように」「底力のタンゴ」を、伊藤副指揮者の指揮で「斎太郎節」を、途中休憩をはさんで、本並先生の指揮で、新曲「われらの朝は海からはじまる」(佐伯洋作詞・明仁憲一作曲)と「サム・トゥ・ソリ」合同合唱曲「並んで歩かなくても」を練習しました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全36名でした。

□連絡事項等

●若園さんより、3月7日号の「うたごえ新聞」の記事の紹介がありました。

「吹田おらが町コンサート合唱団」工藤さんの全国うたごえ総会での発言が素晴らしい内容であること。また池辺晋一郎さんの「空を見ていますか」の「本当に怖いのは」のエッセイも面白い。「うたごえ新聞」購読の勧めと読者の拡大についての協力依頼がありました。

●技術部長より、「パートの移籍」についての報告がありました。

新入団員の加入とバスパートでの休団者が若干名出ていることから、パートのバランスが崩れていることを改善するために、バリトンからバスへ長屋（敏）さん、バリトンからT2へ長屋(正)さんのコンパート移籍をお願いし、ご本人のご了解をいただきました。

●昴定例レッスン3月20日(日)のレッスン会場変更のお知らせ

3月20日(日)14:00よりグリーン会館にて、サムトウソリ公演合同合唱レッスンの終了次第、昴の定例レッスンを行います。なお、運営委員会は11:00よりグリーン会館にて開催します。

●桜井昌司さんより、お礼のお便りが昴メンバーに届いています！

ご健勝のこと存じ上げます。
先般のコンサートにご招待頂き、楽しい時間を頂けましたことに。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。
あれから日が過ぎてしまい、遅ればせのお礼になりましたが、改めまして、皆さんに心からの御礼を申し上げます。
初めての男声合唱団でしたが、皆さんおエネルギーは舞台から迸るようでした。懇親会で身近にお会いしまして、皆さんの実年齢を確認できましたが、本当に若々しい姿と歌声を、身に染みて感じ、味わいました。
その中での「ゆらゆら春」は、自分で書くのも変ですが、非常に味わい深い歌になっていました。押し付けがましくなく、それでいて充分に希望や願いがこもった歌になっていると感じまして、皆さんに歌って頂ける幸せを味わった時間でした。
本当にありがとうございます。
あの日、他の作品もお送りすると言いましたが、近く、本並さん宛に送らせて戴きます。別に、歌って頂く、頂けないは別として、こんな作品もあるということを知って頂ければと思います。
皆さんの歌声を聴かせて頂きまして、また歌を作ってみようか！と言う気持ちも湧いています。調いの中で生まれた歌が、人様の心に届けば、それが冤罪をなくす力にもなりますので、今後とも頑張ろうと思います。
どうぞ今後とも、宜しくお願いします。
皆さんに、どうぞ宜しくお伝えください。

二月 二二日

敬白

桜井 昌司

(参考資料)

斎太郎節

エンヤドットエンヤドットの勇壮な掛け声がいりながらも、旋律的には海唄特有の哀愁を持つ唄。歌詞2節で1コーラスに数える。伝説では、美声の蹈鞠(たたら)踏み職人斎太郎なる男の名から「斎太郎節」の名がついたといわれている。安永6年(1777)12月、石巻の伊達藩銭座で蹈鞠職人による暴動がおこった。このとき多くの職人は捕らえられて遠島に流された。その内の一人斎太郎が、後に漁師になって海に出て、蹈鞠の「銭吹き唄」を櫓唄に転用して歌ったことから広がっていった。しかも生来の美声家で、その声の人々を魅惑したため、いつしか「斎太郎節」といわれるようになったという。しかし、これは後世の付会説らしく、まず「さいたら節」というようなき曲名があって、それから斎太郎という人間が生み出されたものとみられる。

すなわち、もとは岩手県の祝い唄「気仙坂」が蹈鞠唄に転用されたもので、一方気仙沼地方で歳徳神を祭る祝い唄にもこの「気仙坂」を用いたところから「さいとく」が訛って「さいたら節」とかよばれる曲が出来、それに斎太郎伝説が付加されたものかと考えられる。

今日の「斎太郎節」は後藤桃水、八木寿水の師弟によって昭和2年(1927)ごろ編曲されたもので、土地ほめを唄にした「松島の瑞巖寺ほどの寺もない」以下の歌詞も、このときに後藤桃水によって作られた。これを間において、漁師が出漁まえに豊漁を祈って唄う「ドヤ節」を前に、そして「遠島甚句」を後ろに加えて「大漁唄い込み」が作られた。これが昭和6年(1931)のNHK仙台放送局の開局祝いに放送されて一躍有名になり、今では酒席の余興唄としても欠かせないものになっている。

日本民謡辞典(東京堂出版)より

大漁唄い込み

昭和2年ごろ、仙台の後藤桃水が、巡業の途中「銭吹き唄」と「ドヤ節」を聞いたのが機縁で、桃水は門弟の八木寿水と二人で「銭吹き唄」を改作した「斎太郎節」をこしらえ、さらに「ドヤ節」を前唄に「斎太郎節」を中唄に「遠島甚句」を後唄に構成した「大漁唄い込み」をつくった。のち、「ドヤ節」の部分gすたれ、今日では「斎太郎部」と「遠島甚句」の組み合わせたおのが一般に唄われている。

出典 同

因みに岩手県南部から宮城県にかけて唄われる祝い唄「気仙坂」は、我が昂が慰問に訪れた陸前高田市がその中心とか。訪れた際民謡を披露してくれたおばさんたちによると、「気仙坂」のみのコンクールがあるとかで、今度来る時はきっと練習して唄えるようにしてきますなどと言ってきたのを思い出すのである。

B s. 乾 正明

(注) 乾さんより「斎太郎節」の資料をいただきました。ありがとうございました。(訂正:「大漁唄い込み」の文中4行目「の部分gすたれ」は「の部分がすたれ」へ訂正ねがいます。)

若園さんから、「斎節太郎」の源流「気仙坂」についての資料をいただきました。次頁以下に掲載します。(編集子)

【民謡】

斉太郎節

宮城県民謡 (MP3)

松島の サーヨー 瑞巖寺(ずいがんじ) ほどの

寺もない トーエー

アレワエーエエ エイト ソーリヤー

大漁(たいりょう) だエ

前は海 サーヨー 後ろは山で

小松原(こまつばら) トーエー

アレワエーエエ エイト ソーリヤー

大漁だエ

石巻(いしのまき) サーヨー その名も高い

日和山(ひよりやま) トーエー

アレワエーエエ エイト ソーリヤー

大漁だエ

宮城県松島湾沿岸一円の民謡。同地方でカツオ漁の大漁祝い唄として歌われてきたもので、その源流は岩手県陸前高田市気仙町周辺の木遣唄(きやりうた)『気仙坂』である。

それが、重い物を移動する唄として、また神に捧(ささ)げる祝い唄としての双方の性格から東北地方一円に広まったおり、三陸沿岸一円の漁村にも伝えられた。

そして『サイドヤラ』とか『サイタラ節』とよばれていたものに『斎太郎節』の文字をあてた。

この『斎太郎節』は1925年(大正14)宮城県桃生の斎藤清次郎によって、のど自慢の会で紹介され、それを聞いた後藤桃水が弟子の八木寿水に節回しを整理させ、自ら歌詞を補作、今日の形に整えて発表、以来海の代表曲として広まった。

岩手県民謡協会発行
「岩手の民謡」から

「気仙坂」

〔解説〕

享保十三年(一七二八)開設の律貢郡大迫町外川目銭座は、南部領における公設銭座の始めで、品質も鑄造技術も高く評価され、地方人は「大迫銭」と呼ぶほどであった。鑄造工程に「タタラ」を踏んで爐に風を送る重要な作業があり、そのときの労作唄「鑄銭坂」が音の通り「気仙坂」になったと言われ、鑄物師職人の出身地・盛岡周辺や北上川東ぞいと大迫地方で広くうたわれた。古風な落ちつきをもった格調の高い唄で、盛岡市本田・滝沢村・栗石町あたりでは、「鑄銭坂」(おいせ坂)と呼ばれ、祝儀の際に唄い踊られている。いつ頃から曲名を「気仙坂」と書くようになったかは明らかではないが、「気仙」とは旧伊達領内の地名であり、当時は交易や出稼ぎが自由に出来なかったから、当て字ではないかとも思われる。

この唄が宮城県の釜淵唄「斎太郎節」や秋田県の「あねこもさ」(別名抽の音)の元唄であるといわれ、大償神楽の「金顯り」という狂言に出てくる「けせん坂」という唄は、これと同系統のものである。なお「銭座節」もこの唄と同様「タタラ」を踏むときの作業唄である。

気仙坂

採譜：小原 敏男

気仙坂 岩手県民謡

投稿日：2011年4月14日 作成者：Felet

気仙坂 ヤーハエ

七坂八坂 九坂

十坂目に ヤーハエ

鮑を掛けて 平らめた

それは 嘘よ ヤーハエ

御人足をかけて 平らめた

ヨイト ソーリヤ

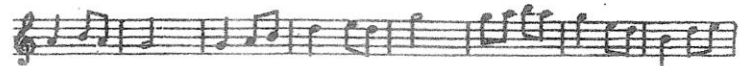
サーノーナー ヨーホエ



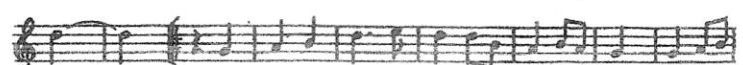
けー せんー ざー かー アー アー ヤー ハー



エー エー なー なー ざー かーアーヤーアー ざー



かー アー こー こー のー オー ざー アー



かー と さ か めー エー エー はー ヤー



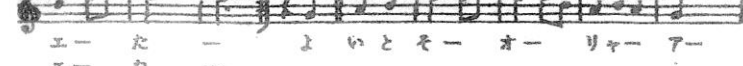
そ れ は うー そー オー よー ヤー



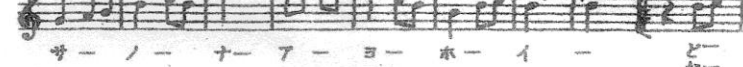
ハー エー エー かー んー なー おー かー



ハー エー エー ごー にーんー そー くー かー



けー てー エー たー いー らー アー めー



けー てー エー たー いー らー アー めー



エー たー よー いとそー オー リヤー アー



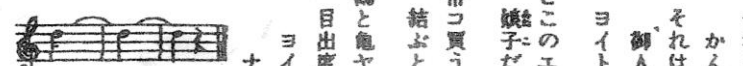
エー たー



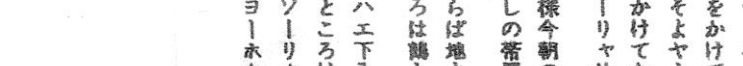
サー ノー ナー アー ヨー ホー イー



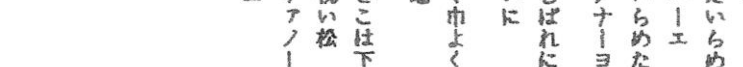
どー おー つー



こーのー エーナさー まー アー サー ハー エー エー



けー さーのー しーばー れー ねーどーこーさーゆー くー うー あー



ねーこーだーまーしーのーおーびーかーいーにー



ねーこーだーまーしーのーおーびーかーいーにー

※歌詞は、「日本の民謡京日本謡」(長田曉二、千鶴幸蔵編著、筑摩書房)

「気仙坂ヤーハーエー七坂八坂九坂
十坂目にヤーハーエー
かんを掛けてたいらめた
それはうそよヤーハーエー
御人足かけてたいらめた
ヨイトソーリヤサーノーヨーホーイ
「どこのエナ様今朝のしばれにどこさ行く
娘だましの帯買いに
「帯コ買うならば地よく巾よく丈長く
結ぶところは鶴と亀
「鶴と亀ヤーハーエ下るとこは下り藤
目出度いところは祝い松
ヨイトソーリヤサーノー
ナーヨーホエ